

## ■ドイツ：ドイツの太陽光発電設備メーカーの倒産相次ぐ

2012年3月2日付報道によると、ドイツ政府が2012年2月23日に太陽光発電を対象とする全量買い取り制度を2013年から廃止する素案を発表したことを受けて、太陽光発電設備メーカーの倒産が相次いでいる。オランダの太陽光発電設備メーカーScheuten Solarのドイツ子会社4社が経営悪化に伴い、2月29日エッセン簡易裁判所に会社更生法の適用を申請した。また3月1日にはドイツのRalos New Energie AGもダルムシュタット簡易裁判所に会社更生法の適用を申請した。ドイツの太陽光発電設備メーカーの業績は連邦政府が太陽光発電を対象とする全量買い取り制度を2013年から廃止と発表する前から悪化していた。昨年末には既にSolonが経営破たん、またドイツ最大手のSolarworldも業績が厳しい状態にある。背景にあるのは安価な中国製太陽光パネルの流入急増によるもので、値下げ競争が激化している。